

## 令和3年度 第2回 沖縄県 SDGs アドバイザリーボード会議 議事概要

日時：2021年12月16日（木）9:30～11:00

場所：沖縄県庁 ほか（オンライン会議）

出席者：

（委員）

蟹江委員、佐野委員、島袋委員、玉城委員、平本委員、和田委員

（沖縄県）

玉城知事、島袋政策調整監、島津 SDGs 推進室長、SDGs 推進室 平良主幹

（事務局）

事務局からでございます。定刻になりましたので会議を始めたいと思います。委員の皆様、恐縮ですがカメラをオンをお願いいたします。よろしくお願いいたします。

本日は年末の大変お忙しい中、オンライン会議にご参加いただきありがとうございます。定刻となりましたので令和3年度第2回 SDGs アドバイザリーボード会議を開催させていただきます。本日の司会は沖縄県企画部 SDGs 推進室の島津が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。初めに配布資料の確認をいたします。本日の配布資料は、資料1、第2回 SDGs アドバイザリーボード会議、会議資料。資料2としましておきなわ SDGs アクションプラン骨子たたき台。資料3としましておきなわ SDGs アクションプラン県民アンケート報告書となっております。よろしいでしょうか。会議中のご発言につきましては Zoom のリアクション機能もございますが、このように手を上げていただいて画面越しでご発言ある旨合図をしていただけますと大変ありがたいです。よろしくお願いいたします。併せて、ハウリングや雑音混入防止のために、発言時以外はマイクをミュート、オフにさせていただきますようよろしくお願いいたします。音声繋がらなくなった場合などもしありましたらチャット機能をご利用ください。本日は北村委員、淵辺委員はご欠席の連絡を受けておまして、6名の委員の皆様にご参加をいただいて会議進めさせていただきたいと思っております。それではまず開催にあたりまして沖縄県玉城知事よりご挨拶を申し上げます。

（知事）

ハイサイ、グスーヨーチューガナビラ。皆様おはようございます。沖縄県知事の玉城デニーです。委員の皆様にはもう年の瀬も迫る中、ご多用のところ今回ご出席いただき誠にありがとうございます。さて、沖縄県においては SDGs を推進する機運が徐々に高まってきております。おきなわ SDGs パートナーの登録数も 312 団体まで増えてきています。8月の第1回会議においてご議論いただいた沖縄県 SDGs 実施指針につきましては、いただいたご意見を反映させていただき、9月の沖縄県 SDGs 推進本部において決定させていただきました。県

民の皆さんと SDGs の取り組みをより一層加速していけるよう取り組んでまいりたいと思います。本日の会議では県民の皆様と SDGs を推進するための具体的な目標などを示す、おきなわ SDGs アクションプランの取りまとめの方向ですとか、多様なステークホルダーが連携する沖縄県 SDGs ステークホルダープラットフォームの構築のあり方などについてご意見やご助言を賜りたいと思います。是非、忌憚のないご発言を沢山いただきますようよろしくお願いいたします。ゆたさるぐとぅ・うにげーさびら。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(事務局)

玉城知事ありがとうございました。知事は用務の都合によりこちらで退席をさせていただきます。ありがとうございます。それでは、これから議事進行を玉城座長にお願いしたいと思います。玉城座長よろしくお願いいたします。

(玉城座長)

資料を確認します。資料 1、2、3 と分かれておりまして、その一つ一つが非常に濃く、色々議論したいところと説明を差し上げたいところと両方あります。資料が多岐に渡っておりますのでちょっと迷われたりした場合には遠慮なく申し上げていただけたらと思います。そして、今日の議論を踏まえ、年度中にもう 1 回集まりまして、来年度以降の流れを作っていきたいと思っております。アンケート等たくさんのご意見いただきまして、これを踏まえながら全体の方向性を決めていけたらと思います。それでは事務局の方にお渡ししまして、説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

資料のご説明をさせていただきます。ポイントだけ絞ってご説明させていただく形を取らせていただいて、今日はできるだけ議論をいただく時間を確保できればと思います。資料 1 から資料 2、資料 3 とございますけども資料 1 を中心にポイントだけご説明させていただきますと思います。

まずおきなわ SDGs アクションプランについてです。右側下の画面をご覧くださいれば構成のイメージを整理しております。基本理念は万国津梁会議でご議論いただきまして、それをもとに実施指針を 9 月の推進本部の方で決定させていただきました。SDGs 実施指針にある基本理念、将来像、21 世紀ビジョンの将来像、さらに 12 の優先課題を基本的には構成の上位に置いた上で、目標として沖縄らしい SDGs の実現という、県民アンケートから整理をした将来像を目標として掲げて、その下にアクションを整理するという形で構成を作っております。

具体的な施策、活動指標につきまして県の 10 年計画が令和 4 年度からスタートすることになっていますが、まずは大きな「沖縄らしい SDGs の実現とアクション」ということで今

回たたき台として取りまとめたところでございます。

次に検討スキームですが、インプットとしての県民アンケートは9月27日から12月3日までの期間に1,686件の回答がございました。またSDGs実施指針を取りまとめる際にパブリックコメントで色々な具体的なお意見もありましたので、こちらの方も反映させていただいて整理させていただいています。この間、振興計画の中間取りまとめというのがございましたので、こういったものもベースとしてインプット材料、要素として取り込みながら検討させていただきました。

アドバイザリーボード会議の中でも若者の意見を集約して検討すべきという意見が出ておりました。若者の意見収集の一環として、SDGs 沖縄グランプリを実施しました。さらに高校生を中心とした会議、生徒会のいろいろなワークといったところの情報も教育庁に情報提供いただいて、若者の意見というのものなるべく反映するように、収集するように努力を入れたところでございます。

また、県政出前講座、県民の勉強会等も非常に活発におこなわれておりました。そちらのアンケートの結果と企業・団体でも主体的に情報収集、もしくはアンケート、イベントへの意見集約をさせていただいて、情報提供いただいたものに関してはなるべく早く反映したいということで、インプット材料として整理しております。

こういったものを元に今回骨子のたたき台を作成しているので、アドバイザリーボードの皆様のご意見を本日いただいた上で、来週から五つの専門部会（延べ30名の有識者）を開催して意見を収集していきます。その後、団体・市町村、みなさんのご意見を集約しながら最終的には素案、案という形で取りまとめていきたいというものをこちらの資料にまとめています。

優先課題1は性の多様性等文言がありますけども、その下に沖縄らしいSDGsの実現ということでアンケート等も整理しながら2030年の沖縄、もしくは2040年、2050年といった遠い先の未来も見据えながらこういった社会も実現してする目標設定をさせていただきました。それに付随する具体的なアクションは県が施策として実施するというだけではなくて、県民みんなで取り組める内容も意識して整理をさせていただきました。

優先課題12までご説明すると時間が経ってしまいますので、資料については事前に暫定版も含めてご提供させていただいておりますので詳細の説明は割愛させていただきますけど、本日ご意見をいただければというのが今回の会議のお願い事でございます。

もう1点、本日の議事の2、ステークホルダープラットフォームについてもご説明をさせていただきたいと思っております。これはプラットフォームの位置づけでございます。31ページですけども、プラットフォーム構築における視点ということで目的は色々なステークホルダーとの参画・交流・連携を促進していこうというのが趣旨でございます。特に今回参画性、たくさんの方々に参加していただくということを重視して構築したいと考えて、たたき台として整理をしているところでございます。これまでおきなわSDGsパートナーということで企業・団体、県内の企業・団体との連携・交流というのを取り組んでやってきました

が研究者など個人で活動されている方も県内で多々おまして、個人の方もどんどん参加いただけるような枠組みを企画しているところでございます。現在、神奈川県もしくは長野県とも連絡会議を作って色々意見交換をさせていただいております。先日は横浜市とも色々やってみようという話をさせていただきました。他県の自治体とも連携を促進していきたいということと、世界のウチナンチュとの連携、エネルギー部門ですとハワイとの連携も視野に、あくまでも参加の枠組みとして国外の企業団体というところも広げた形で整理をしております。

運営につきましては実施指針の方に民間セクターでの取り組みという位置付けがございました。公設民営に多少はならざるを得ないかなということで、県の方でプラットフォームを立ち上げて将来的には自走化ということも視野に入れながら段階的に取り組んで行こうというアプローチで考えております。

資料下の枠組みには登録認証制度の記載がございます。これまでパートナー登録制度として取り組んできております。こちらは来年度も引き続き参画性を重視して取り組んでいきたいと思っておりますが、しっかりとSDGsに取り組んでいる企業を認証していくような仕組みも来年度作ってきたいという趣旨です。当然インセンティブの検討も含めてこれから調査も同時並行で進めておりますので、結果も報告させていただきながら制度設計を今後進めていきたいと考えております。

この辺のイメージを絵にしたものがこちら体制図です。県内・県外ということで会員を広く登録できるような形にしていくことと、下の方にプラットフォーム事業局とあります。仮で沖縄SDGs推進センターは、民間セクターへの委託業務ということで最初は立ち上げるというイメージで作っております。ただ、こういった事務局と会員だけの取り組みということだと、全体の運営として色々な意見が反映されにくいこともあるので、運営協議会のような形で主要な団体、企業の方々に参画いただいて全体の運営についてはみんなで相談しながら進めていくという体制を作ればと思っております。機能については緑の字で書いておりますけども、概ねこのような方向で整理しつつ、将来的には色々なニーズがステークホルダーの方から出てくるかと思っておりますので、そういったものも踏まえながら今後整備をしていくというところで考えています。資料の説明は以上になります。

(玉城座長)

ありがとうございました。それでは委員の皆様、おきなわSDGsアクションプランについて議論をしたいと思っております。尚、12月20日から27日までの間、5つのSDGs専門部会においても意見収集がおこなわれます。事務局からも説明があったかと思っておりますけども、これからおきなわSDGsアクションプランについてご意見がありましたら、併せて宜しく願います。

(蟹江委員)

ご説明ありがとうございました。まず中身の話に入る前に、骨子の中でゴール、ターゲット、ローカル指標を除くという話があったんですけども、これはどういうふうに理解すればいいのかというのをまず伺います。

(事務局)

ご説明させていただきます。こちらの方は骨子をまとめた後にゴール、ターゲット、ローカル指標を整理しておこうという趣旨で、二段階で整理していきたいと。今回、目標としては沖縄らしいSDGsの実現とそれに基づくアクションを専門部会のご意見も聞きながら整理をしていく想定です。骨子の段階で指標を出すというご説明をさせていただいた経緯はありますが、作業の効率性を考えますと、アクションを先に進めていただいてそれをもとに指標を整理していくというそういう形で進めさせていただきたいと。次回のアドバイザリーボード会議にはこの辺を整理したものを提示させていただきたいと思っています。

(蟹江委員)

ありがとうございます。その上での意見を出させていただきたいと思うんですけど、アクションプランでゴール・ターゲットそれからそれを測るための指標というのがないと、やはりダラダラしてしまうという感じになると思います。したがって、政府のアクションプランもそれが無いのが非常に大きな問題として議論されているところということも踏まえて、やはりゴール、ターゲット、指標というのを明確に出していただきたいというふうには思いますというのの一つです。

それから優先課題のどこをとっても横断的な課題が入ってくるというふうに思いますので、最終的には部署ごとに落ちていくとしても、横断的な課題で予算が付けられるのが大事だと思いますので、予算の付け方ということも含めて骨子を作っていただきたいなというふうに思います。3月までのところが非常に大事なプロセスになると思いますけども、ぜひそのところをしっかりと見ていてオリジナリティーのあるものを出していただければなというふうに思います。

ローカル指標に関しては統計データだけにこだわらずに出していくということも大事なんじゃないかなというふうに思います。例えばアンケートの結果もそうだと思いますし、SNSでの反応なども参考的に出していくと、特に若者関係の話とかというのは、そういうデータの方がむしろ現実を反映しているということもあると思いますので、柔軟に考えていただくといいなというふうに思っています。

(玉城座長)

ゴール、ターゲット、ローカル指標についてはしっかりとやっていこうということで、今回専門部会を立ち上げています。アドバイザリーボードだけではターゲットを絞り、沖縄の専

門的な意見交換をしていくのはかなり難しいということがあって、沖縄県の方でも各界から多岐にわたる人材を集めて会議がようやく始まろうとしています。

おきなわ SDGs アクションプラン県民アンケート報告書は単にアンケート回答していただきではなくて、まず SDGs とはなんぞやという講座をして、その後にワークショップもして、若者たちが本当に思い思いの意見交換をして、今回しっかりと答えを出していったので、あとでクロス集計なども見ていただいたら分かりますが、大人の考えてることと若者が考えていることが異なり、それぞれの世代の特徴もあり、良い意見が出ています。そこも踏まえてどういうふうにターゲットを絞ってゴールを追求していくのか、指標設定していくのかというところが、今後3月まで続く作業かなと思っています。

(事務局)

専門部会は来週から立ち上げて、アクションの実現の方向性とか、骨子のベースで議論をいただくことになると思うんですけども、おそらく色々なご意見が多々出てくるだろうと。自由にご議論いただきたいと各委員にお願いしておりますので、結果は委員の皆様には共有させていただきたいと思っています。

また、蟹江委員からご意見いただきました。SDGs この3年間取り組んできていまして、横断的な課題対応はプロジェクト的なアプローチに近いのかもしれませんが、色々な関係部局と取り組みが連動していくような統合的な課題解決的なアプローチというのが非常に重要だなと感じているところです。専門部会は5つの部会で分けていますが、全ての優先課題について議論いただきたいということで皆さんにお願いして、部会、部会で分野を切るのではなくて、関連するものはみんな統合的にご議論いただきたいとお願いをしています。そういった議論も踏まえながら横断的な取り組みというのが県庁の関係部局の連携、もしくは官民連携という形で色々取り組みが創出されていければと考えています。そういう枠組みというのも意識しながらアクションプラン取りまとめていきたいと思っています。

(蟹江委員)

ありがとうございます。

(玉城座長)

それでは島袋委員お願いします。

(島袋委員)

私の危惧した部分が、ターゲットが見えないところと指標の設定どうやってやるのかというところです。資料からはSDGsの県の優先課題というのは分かるんですけども、どのSDGsターゲットと関連しているのかというのが見えてこないです。SDGsのターゲットは世界共

通の課題で、県民の意識とか振興計画とかそれは沖縄県の自分達で考え出した課題なんですけども、世界共通の課題に近づけていくというのが重要で、SDGs のターゲット・指標を見ないとターゲットの意味が分からないというのもあります。

昨年の検討ではターゲットを議論しながら入れ込んでいったんですけども、今度専門部会が始まる時にターゲットをきちんと分かるように関連付けてあげないと、専門部会の方々は何を議論したらいいか、ローカル指標は何を出したらいいのかというのが分からなくなるので、ターゲットについて考えていただきたいと思います。

それともう1点は蟹江委員の議論と関連するんですが、沖縄の場合は振興計画が第一で、それに基づいて予算編成されるという仕組みになっているので、その実施計画の中により具体的な取り組み施策、事業、指標が設定されています。実施計画の策定は、前は確か5月か6月だったと思うんですけども、もしそういう早い段階で出るとしたら1、2、3月ぐらいで指標の設定まで持っていかなければならなくて、来年の4月早々ぐらいにはもう固まっていけないといけないという理解でよろしいでしょうか

(事務局)

スケジュールについては正確にはお答えできないところがありますが、この実施指針もアクションプランも県民の皆さんと一緒にやっていきましょうというコンセプトで県民アンケートも取らせていただいて、意見を踏まえ、地域課題と照らしながら、まず考え方をこういう形で整理させていただいています。

専門部会の中でも意見が多々出てくるだろうと考えており、ボリュームがもっと増えてくるだろうと思っています。その中でSDGs 実施指針の中でも主なゴールとターゲットというのは整理をいただいておりますが、100パーセント合致しなくなる可能性もございますので、まずは地域課題、県民ニーズをしっかりと議論して整理をした上で、それを踏まえてSDGsのゴール、ターゲットに馴染まないものを外すのかどうかという議論もあるかもしれません。沖縄らしいSDGsということであればそういったこともSDGsの一環として取り組んでいくということ整理できればと思っているところでございます。

これらを整理した上で指標設定をしていくということですが、前回の会議でも触れたところもありますが、3月までに100%指標設定、目標設定もできるかということ、丁寧に議論させていただきたいというところもあって、こちらの骨子を念頭に沖縄県民みんなでどういった取り組みを進めていくかということをしっかり議論させていただいた上で、指標、行動目標設定云々については専門部会、アドバイザーボードご意見を踏まえながら、できるところからまとめていくということも一つ大事ではないかと考えております。

(島袋委員)

プラットフォームに関しましては、できればこの指標の設定とかにも関わるような場を設けて、そこを先に設けていった方がいいんじゃないかと。チェックする主体性を持った人々

が必要で、プラットフォームはそういったものに特に役に立つんじゃないかと思っています。指標設定の議論の中にすでに作りつつあるプラットフォームを巻き込んだ方がいいんじゃないかなという提案と、もう一つは指標の設定は定量的な指標と定性的な指標と分けているんですけども、SDGs の特徴的なのは手続きがきちんと制度化されているかどうかという指標が多いんです。これは人権の問題が非常に大きいので、そういった制度・手続きが作られてるかどうかというそういう指標も柔軟に考えていただければなという意見です。

(玉城座長)

ありがとうございます。平本委員お願いします。

(平本委員)

事務局の皆さんは膨大な作業していただきましてお疲れ様でした。いろんな観点から検討をなされたところが読み取れました。1個1個の分析で細かくご説明いただく時間がなくて非常に残念ではあるんですけども、本当にご苦労様でした。

その上で、アクションプランで一つ、プラットフォームで一つ、コメントをさせていただきたいと思います。今までの蟹江委員、島袋委員のご発言にも関わる部分かと思いますが、まずはたたき台ですので最初この段階では非常に十分にご検討はされているというふうに認識をしております。今後の専門部会で話をされていくというふうになった時に、それぞれの優先課題ごとに沖縄らしいSDGs 実現というところで文言が書かれていて、実現に向けたアクションというところでそれが書かれているというところだと思います。ここは先ほどグローバルなSDGsの話とも関わってくる場所なんですけど、やはりグローバルでSDGsが設定されている意義というのは、「世界標準でここまでやらないといけませんよ。」というある意味の常識というのを提示していると思います。日本ではその影響もあって最近ジェンダーの議論ってすごく活発になっていると思いますけど、SDGs がなかったとしたら、日本の常識のまま改善をしていくという話になって、遅々として進まなかったというところもあるんじゃないかなというふうに私は認識しています。なので、どのレベル感まで世界としてはやっていくのが普通なのかというところが、やはり文言として盛り込まれていくという必要はあるんじゃないかと思います。残念ながら現在の日本全体の国民の常識とグローバルスタンダードというのが乖離しているというようなことも考えるので、そこをしっかりと明示した上で議論をしていくということが必要になると思います。

例えば優先課題の①というところだけ見ていくと、「性別による役割・仕事といった決めつけをなくしていく」というような、この「なくしていく」というような表現というのは、どういうレベルを想定しているのかというところなんです。例えばSDGsのターゲットでいけば0に全くなくすというようにとか半減するとか、それとある程度のレベル感を踏まえた上で、このアクションの表現というようなものを決めていくというようにことがなされていると思います。それがグローバルスタンダードで目指すところと一致してるような表現

でない、やっぱりグローバルの中での沖縄としての立ち位置というのはどうなのかというような話になってしまうと思います。ですので、たたき台をまず作ってというところはいいんですけども、目標・指標とかというような議論と並行しないと、この文言が決めきれないというところは、どうしても出てきてしまうので、それを留意点としておいた上でまずは第1弾固めましょうというような話なのか、その辺の意識合わせをしっかりとした上で専門部会でお話をされないと意識のズレというのが出てきてしまうと思います。

アクションがある程度洗練された上で専門部会の方々がそのアクションをする上で掲げていく自分たちのモチベーションが高まる納得感がある文言というのは沖縄らしいSDGsの実現というようにと書かれているという状況じゃないと、あまり意味を成さないものになってしまうと思います。納得感がある表現だと、アクションというのが具体的にどんどん進んでいくというような後押しをするような働きになっていくと思うので、そういった意味ではこの二つというのは非常に重要な要素なので、そういった留意点を踏まえながら検討いただけるとありがたいなというふうに思います。

もう1点は、プラットフォームの話です。今後認証制度も設定していきますよというような話がありましたが、ちょうど国連のUNDP方でSDGsインパクトという認証制度の日本語版の詳細な説明資料や自己診断キットが紹介をされたという状況です。来年度パイロットを踏まえながら認証機関というのを設定していくという話になっています。具体的に9時間のトレーニングオンラインツールというのもデューク大学と連携をして開発をされているという状況ですので、可能であれば最終的にはそういったところにつながっていくような認証制度にしていくというようにすることが必要なんじゃないかと思います。その制度自体は中小企業とかそういったところへの活用というところもきちんと踏まえて作られているものですので、沖縄の中で、ステップを踏んでいった時に最終的にはやはりグローバルの活動の中で認められるような、そういったところにもいけるんですよというようにステップになっていった方がより大きな沖縄として、沖縄の魅力を世界に発信していくということがやりやすくなっていくと思うので、是非それを踏まえた上で検討を進めていただければというふうに思います。

(玉城座長)

ありがとうございます。それに関しまして事務局ご意見よろしいでしょうか？

(事務局)

ご意見ありがとうございます。アクションプランについては先生方のご意見、非常におっしゃる通りだと思います。そういった観点も入れながら専門部会の議論というのは活発に進めていきたいと思っております。おそらく事例でジェンダー平等の案件を平本委員に取り上げていただきましたけども、これに対しても非常に活発なご議論いただけたらと思っております。専門部会の委員の構成につきましては今回資料につけておりませんが、後ほど委員

リストは委員の皆さんに共有させていただきますので、こういった方々の議論を共有させていただいた上で、進めさせていただければと思っております。多様な観点でご議論いただく中で、SDGs のゴール、ターゲットというものも意識しながら我々の方もご説明させていただいて、最終的にエンドポイントに繋がるような形でアプローチをさせていただきたいと思っております。プラットフォームについては非常に貴重なご意見、情報をありがとうございます。そういった情報も分析しながらアプローチしていきたいと思っております。

(玉城座長)

ありがとうございます。それでは和田委員の方をお願いします。

(和田委員)

和田です。ご説明・取りまとめ、ありがとうございます。すごく分かりやすい資料だと思いました。私の方から3点あって、まず1点目はやはり指標の部分等でグローバルとローカルの関連につきまして、グローバルで求められているSDGsの視点・課題が担保できているかどうかをチェックするプロセスを入れていただきたいです。

2点目が今のたたき台につきまして、「沖縄らしいSDGsの実現」と書いてあるんですけども、道筋というよりは、2030年のSDGsが達成された沖縄の姿を示している印象を受けたので、表現について検討の余地があると思えました。アクションのところにつきましては、現在のたたき台ではいろんな主体のアクションが入れ子状になっていて、誰が何をやるのかというのが分かりづらいように感じます。この主体について、指標を作っていく中でしっかり明記していただければと思えました。

3点目は資料3のアンケート結果についてです。1,600人の意見が集まり、様々な分析がなされていて興味深いと思えました。ただし、レーダーチャートの部分が気になりました。今の回答者数ベースの見せ方ですと、マジョリティの意見が大きく見えてしまうおそれがあります。例えば割合ベースに直すなど、マイノリティの意見も策定していく上で反映できるような見せ方にしていいただければと思えました。

(事務局)

「沖縄らしいSDGsの実現」の表現ですが、当初は「2030年の沖縄の姿」っておっしゃる通りの文言を検討しておりましたが、アンケートを取るにあたって2030年だけではなくて2045年とか2050年とかこういった文言で考えてもらいましょうというアプローチをかけた経緯もあり、2030年と書くのがちょっと悩ましかったので今は暫定で「沖縄らしいSDGsの実現」といった形にしております。趣旨に合うような形でもう少し検討してみたいと思います。

主体については今おっしゃる通りで、アクションの中で整理をするのか、それとも更にもう一段階主体と取組を具体化していくようなアプローチにするのかというのは議論をしてい

るところでございます。抽象的というご意見はおっしゃるかと思しますので、ご意見踏まえて検討させていただきたいと思っております。アンケート結果についてはご意見を踏まえてもう少し整理をさせていただいて最終報告にさせていただきたいと思っております。

(玉城座長)

皆さまありがとうございます。佐野委員、質問よろしいでしょうか。

(佐野委員)

もう皆さんから意見が出尽くしている感があるのですが、先ほど蟹江委員や平本委員もおっしゃっていたグローバルスタンダードとの乖離について、そこが沖縄でSDGsを広めていくすごく重要な意味だと感じています。私が携わっている途上国支援の経験からも、そこが必要だと思います。この言い方は沖縄にいる皆さんに失礼に聞こえるかもしれませんが、やっぱり引っ張り上げていかないといけない部分というのものもあるし、反対に沖縄が周りを押し上げていくこともできる。それがSDGsのツールとしての活用だと思っていて、そこは頑張っていないといけないと思います。

冒頭、ご説明のあったアンケート結果で、若者とその上の世代との意識の乖離というのが結構見えているということですが、特に若者が今回、たくさん回答してくれたのがすごく良かったなと思います。若者が引っ張っていく、若者がジェンダーとかエネルギーとか、いろいろなことに興味を持ってきているのが見てとれたので、そういう層の人たちが自分たちの問題としてこれをやっていくのだ、沖縄でやっていくのだというところを、うまくこのアクションプランの中で示していけるといいと思います。高校生向けのコンテストでもいろいろなアイデアが出ていて、とかく大人は「現実的ではない。」などと言ってしまうがちですけれども、それを叶えたいと思っている若者の意見がしっかりアクションプランに入っていくことが必要だと思っております。

また、この実現に向けたアクションというのは、ゴール・ターゲット・指標に直結するアクションと、やや間接的な象徴的・例示的なものとしてのアクションが、ある程度ごちゃ混ぜになってしまってもやむを得ないのかなと私自身は思っています。きっちりとターゲットと直結するアクションだけを並べていくと、みんなで頑張ろうという意識もなくなっていくように思うので、そのとり混ぜ方というか、並べ方というのは、まだ議論をしていく必要があると思います。

最後に、アクションのアクターと指標に対する説明責任の所在です。私の所属組織も独立行政法人として対外的な説明責任を、特に指標に対してどこまで達成できているかということの説明しなければいけないのですが、その経験から、アクターと説明する主体が必ずしも一致しないことがある時に、指標によってどこまで達成できているかを説明するということとはしっかりとやっていかないといけないだろうと思います。財源の話とも重なりますが、県庁の中だけでやっている、あるいは民間企業だけにボンとまかせると、結局縦割り

になってしまって、責任の押し付け合いみたいになるところもあるので、指標・ターゲットを決めたらどこがどういうふうにするのか、あるいはどう説明するのかというような、体制もしっかり決めていかないといけないと思っています。そこがチームワークでやれるようになっていくことが必要だとも思いました。

(玉城座長)

ありがとうございます。今チャットの方でいろいろご議論が交わされています。それは今後チャットワークの方で皆さまと議論を意見交換等していくということでもよろしいでしょうか。とりあえず、今日の分量がかなりあり、前に進めさせていただきたいと思います。それでは次の説明ですね。事務局の方からお願いします。

(事務局)

アクションプランを中心にご議論いただいたところでございます。次はプラットフォーム、少し先行して議論もいただいているところですが、プラットフォームのあり方、今後の方向性等も少しご説明、ご議論いただければと思います。資料の説明は先ほどさらっとさせていただきましたけども、基本的には先ほどの佐野委員からのお話にも少し関連するかもしれないけども、県庁だけでやるアクションプランとか指標とかそういうところだけではなくてみんなでやっていきたいというアプローチでございます。

そういう意味ではアクターと指標の設定との関連は非常に重要になってきていて、プラットフォームの中でも自由闊達に議論する場を作れないかなと思っているところです。その中で色々な官民連携のプロジェクトが生まれてくるような話とか、その中で目標設定もしていくような、喧々諤々みんなで議論する場というのもこのプラットフォームの中で議論していきながら具体的な取り組みそれに対する指標というものを設定していくこともあってもいいのかなと思います。

2030年までのアプローチですので枠組みを活用しながら毎年毎年ブラッシュアップ、充実していくというアプローチも一つありかなと思っているところです。ここはプラットフォームの関連するところでございます。

もう一つ、登録制度については引き続き見直しをしながら来年展開し、加えてプラスアルファで認証制度という少しステージを上げた枠組みも作ろうということでございます。今まで登録制度については参画性を重視していて、あんまりアプローチとしてPDCA・フォローアップというところは厳密にやらないアプローチをしてきましたけど、来年度リニューアルする中でそれぞれの取り組みとか活動指標みたいなものも設定していただいた上で登録・認証していくというアプローチも検討中です。そうすると一つアクターとして、その中で登録制度を活用いただいている団体についてはこういったアクションプランを実現していくアクターとしての役割というのも一つ担っていただけないかなと。これもまだアイデ

アベースですけどもそういった議論も含めてアクションプラン、プラットフォームを今検討しているところです。前向きにご意見をいただければありがたいと思っています。

(玉城座長)

委員の皆さん資料1の33ページに今プラットフォームのイメージですね。これはカチッと決まっておられませんということで、刷新されております。これに対して意見交換をしていきたいと思います。それでは平本委員お願いします。

(平本委員)

先ほどの話に付け加えてという形ですけどもプラットフォーム自体は非常に良い取り組みですし、みんなでやっていくということもすごくベースになる部分と思ってぜひ活性化していただきたいなと思っています。その中で是非これは一つリクエストという形になりますけども、やはり今回のアンケートも若者の方に沢山のご回答をいただいたということで良いと思ったんですね。どんどん活躍の場というのをご用意していきたいとか、うまく後押しをしていきたいみたいな形が、プラットフォームの中でもやっていった方がいいんじゃないかなと思っています。

海外を見てもやっぱり若者がリーダーになって活動するという、環境作りが進んでいると理解しています。理想論でいえばそういった仕掛けなくみんなフラットな立場で、若者の方も活発に議論していただくというようなことが理想ではあるんですけども、残念ながら今の日本というのはそういうふうにはなっていないくて、大人が頭ごなしにダメだということを書いてしまって、そういう教育が残念ながら今まで多く存在していたということで、なかなか若者が入りづらいというような現実があります。ですので、例えばリーダーとして役割を担っていただけるような方々というのを、場としてご用意をして、その中でその方々の活動を大人がサポートするというような構図を明確に打ち出すような形というのは、必要なんじゃないかなというふうに思っています。

例えば先ほどの高校生のイベントとかも非常にステップとしては良いと思うんですね。そこで成果を上げた方々はそのままりーダーとして活躍いただくというようなことで、すごく活発な方々というのがどんどん活動のフィールドが広がっていくとか機会が広がっていくというようなことが出てくると、こういった取り組みにどんどん参加していこうというようなモチベーションも湧いてくると思うんですね。ですので、ぜひそういった場としてもプラットフォームの中に仕掛けを作っていただければというふうに思ってます。

(玉城座長)

ありがとうございます。それでは一旦皆様の意見を聞いていくという形でよろしいでしょうか。島袋委員お願いします。

(島袋委員)

理想像に近いような形で今用意してくださったので非常に感心して見ていましたけど、万国津梁会議の時から継続した議論で気になっている点は、玉城委員が特に主張されていたんですけども、社会的弱者とか外国人とか、特に声をあげられない人々へのアプローチです。そういった方々をどう巻き込むかということが非常に SDGs では重要になるということで、今若者もそうです。我々が場を作ってあげることが必要なと思うんですけども、これは重要な課題として、どう取り組んでいくかということに意識を持たなければならないんじゃないかなというふうに考えています。

(事務局)

基本的にはそういった方々の個々の声というのは非常に重要視して、そもそも行政の政策というのはそういったアプローチをすべきだとは思っていますので、当然重視していくということです。このプラットフォームにそういう方々にも全部入っていただければありがたいと思いますが、そういうアプローチは難しい場合もあると思っています。そういった方々と日々接していらっしゃる NPO の方々や活動されている方々、ボランティアの方々も含めて、こういう場に入っていただいて色々と意見交換・情報交換しながら何ができるかという議論を広げていくというアプローチは考えられると思っています。

専門部会の中にも NPO 法人の方等も入っていただいております、そういった観点で、そういった方々の代弁者ではないですけど、現状を踏まえながらご意見いただくというアプローチをさせていただいていただければなと思っています。専門部会の観点もありますし、プラットフォームでもそういった NPO 法人とか支援団体の方々に参加していただくというアプローチも考えられます。

どこまでできるかというのはまた日々工夫をしながら検討していく方向でしかお答えが難しいんですけども、現状、そのように考えているところです。

(島袋委員)

ローカル指標の設定に関して専門部会の方の議論の中心に進めていくということが分かったんですけど、専門部会の方がプラットフォームを利用して多くの企業、30 人とか 40 人、万国津梁会議のころにやったような、ステークホルダー会議のようなそういったものを設け、しかもフォローアップしていく主体になっていくということが非常に重要だと思うので、そういった事はどうでしょうか。

(事務局)

34 ページ目の真ん中ぐらいに参画という緑の字があります。その下に各種ステークホルダー会議というのは機能として記載させていただいております。ここのステークホルダー会議というのをどういう形でやっていくかというのはテーマにもよりますし、参加される

方々のプレイヤーの構成でも変わってくると思うんですけど、具体的に言うと琉球新報社さんが主催で100人の声を届けるというオンラインイベントを開催いただきました。

私も冒頭説明者で参加させていただきましたけど、若い方々中心に色々スピーカーのご意見を聞きながら議論していく、質問していくというアプローチになります。限られた時間でなかなか結論が出る話ではありませんが、いろんな人たちが自由に議論していく場というのは非常に重要だと当時感じたところです。一つこういうアプローチもありますし、DXが進んでいる世界ですので、今までと違った意見を共有・議論する場というのは多様に作れるのかなと思っていますので、ステークホルダー会議のあり方、進め方についてはさらに先生方のご意見も踏まえながらいろんなアプローチができるように検討したいと思います。

(玉城座長)

私の方から少し補足ですが、専門部会に保育の専門家として選ばれた方から相談を受けまして、自分がいきなりSDGsで何ができるだろうかとすることに少し困惑されていましたが、SDGsの状況をまず知って、保育の問題が沖縄にとっても非常に重要であるからこそ、じゃあ自分たちがその届けられる、間に入ってクッション材というか、いろんな人たちから情報を吸収してそれを沖縄県の課題に上げていく、自分がアクターになれるんだということで、前向きにいろんな方々にヒアリングが進めているという委員もいらっしゃいます。

もう一つNPOの方からも相談を受けました。そちらの方は過去10年間ぐらい沖縄県内の在住外国人のヒアリングを続けている団体ですので、外国人が困った問題、表に出せないものが今回SDGsの専門部会の中で声を上げられるということです。外国人からもヒアリングが始まっている最中ですので、今後専門部会に対してどのような役割であるということをもう少し皆さまからも意見を吸収し、繋いでいくと、専門部会プラス、ステークホルダー会議というふうに繋がっていけるかと思っています。それでは蟹江委員お願いいたします。

(蟹江委員)

私もさっきの島袋委員からの最後のポイント非常に大事だと思います。このステークホルダー会議の規模が何人ぐらいになるのかということにもよるとは思いますが、ステークホルダー会議なのでできるだけ会員の数は多い方がいいとは思いますが、このアクションプラン・目標・ターゲット、指標の在り方について、ステークホルダー会議を活用しながら、県民の方々の意見を聞くというメカニズムを作ることは非常に大事だなというふうに思いました。

あともう一つは33ページの図を見ると、「沖縄県SDGsステークホルダープラットフォーム」というのと「沖縄SDGs推進プラットフォーム」という二つ書かれていて、その関係が僕自身もよく分からないのでご説明いただきたいということと、整理をしていただくことは非常に大事じゃないかなというふうに思います。仕組みが多すぎると見る方としては混乱してしまうので、できるだけシンプルにしていくというのが大事かなというふうに思います。

あとはすごく練られていて良いプラットフォームになるんじゃないかなと思います。内閣府のプラットフォームもそうなんですけど、全部いろんな人に任せちゃって、分科会やるのは勝手にやってください方式なので、場を提供することに加え、そういうところから少しお世話もするというか、活動を促すようなことをしたり、プロジェクトが立っていった時に、どういう関与するのかというところも考えておく必要があるのかなというふうに思います。勝手にやってもらってという形でもいいと思いますし、場だけを提供する、もう少しお膳立てをすることで含めるというものでもいいと思います。そこら辺は追って姿勢を決めておく必要あるのではないかなと思いました。

(事務局)

こちらのプラットフォームの図は考え方を分けて整理しているもので、最終的に見せ方としてはシンプルにすることもあってもいいかなと思っています。

県庁の取り組みと、民間セクター主体の取り組みというのはあえて分けてみせるという意味で、このステークホルダープラットフォームというものを、今から作りますということと、県の推進本部とかアドバイザーボード会議とかも含めて、大きな枠組みとしての推進プラットフォームという、その大きいものと小さいものという整理ですけども、一般の皆さんにプラットフォームという形で説明する時にもう少し分かりやすくシンプルにということは今後検討したいと思っています。ロジックとしての分け方というふうにご理解いただければと思います。

(蟹江委員)

名前はもしかしたら変えた方がいいかなと思います。

(事務局)

工夫してみたいと思います。

(蟹江委員)

よろしくをお願いします。

(玉城座長)

佐野委員、お願いします。

(佐野委員)

今の皆さんの議論や意見を伺っていて、声が届きにくい方の声を受け止める場所があるというのがこのプラットフォームにおいて実現できればいいと思います。

一方で先ほど若者の活動というのがありましたけど、それぞれ活動して、その経験・知見をシ

シェアできる場所があるといい。万国津梁会議でもそういう議論が出ていまして、バーチャルな SNS などによるシェアの場でもいいよねといった話もあって、報告書にもそういうことを書いたと記憶しています。

資料では、普及啓発、参画、交流連携、プロジェクト立案と分かれている中で例示的に書かれているだけだと思いますが、ポータルサイト等の情報発信は必ずしも普及啓発だけではなくて、参画自体にも、交流連携にも関わってきます。

そのバーチャルなところで、先ほどの外国人もそうですし、社会的弱者とされる方もそうですが、誰か代表に託さなくても直接言える場がプラットフォームなのだ、というのを見えるようにしておくといいのかなと思います。

ただ、プラットフォームが 100 パーセントではない。「ここに入らないとダメです、沖縄の SDGs に貢献しないです。」ということではない。SDGs を推進していこうと引っ張っていくところもあれば、みんなでシェアするところもあるし、伝えたいところもある、というふうに必要なことができるようにしていく、ここに集まった方がいいなと感じられるものにしていくという見せ方、仕掛けができるといいと思いました。

#### (事務局)

SNS 等も使って会員としてエントリーしなくても意見が届けられるような仕組みっておっしゃる通りだなと思うので、こういった中で検討していきたいと思っています。このプラットフォームの事務局については登録している会員だけにサポートや情報発信していくということだけではなくて、参加していない県民の皆さんとか、あとは民間セクター主導でいろんなプラットフォーム的な取り組みというのは色々と県内でも起こっています。そういう枠組みは枠組みで特徴的な取り組みをそれぞれで活発に進めていただいています。そこでの連携、もしくはサポートということも含めて大きく県全体、県に限らず、みんなの取り組みが前に進むようなアプローチというのを重視して、県庁の方が一緒に連携して作る話になりますので、そういった観点でやっていきたいと思っています。

その中で登録していない方々についても意見は収集しますし、情報も提供していくし、場合によっては交流の場を作れるというようなアプローチもできればと思っています。特に最近高校生、中学生の中で非常にニーズが高くて県の教育庁の方にもお願いしているいろんな講義、勉強会、ワークを活発に進めさせていただいています。交流の場、県庁で言うと県政出前講座というアプローチになるんですけど、そういう県民主体の勉強会に出ていろいろ説明したり交流していった意見を聞いていくという、これも非常に重要なツールだなと思っていますので、こういった取り組みもこのプラットフォームに組み入れたり連携することも引き続き検討したいと思っています。

#### (玉城座長)

皆さま活発なご意見ありがとうございました。今議事進行1、2、3ございまして、1、2に関しましては終わりました。その他皆様でどうしても共有したいということありますでしょうか？和田委員お願いいたします。

(和田委員)

今のお話聞いて思ったことがありまして、ボランティアに精力的に取り組んでいる高校生と話す機会があったのですが、「自分の町に対してこういう思いがあるけど伝える場所がない」という声を聞きます。若者が市役所とか県庁とかに行くことやそこで思いを伝えることはハードルが高いので、プラットフォームは若者の思いを汲み上げられる場であるといいなと思っています。

今の図を見ると、どちらかという県の政策をやるプラットフォームであるという書き方であったり、ステークホルダープラットフォームとSDGsプラットフォームに矢印が両方あるんですけども、本来はこの行き来というのがメインだと思いました。その上でプラットフォームの中にコンシェルジュ的な方を置いて、高校生や参画する企業などメンバーの人達自身のSDGs達成に対しても、よりミクロな視点でのサポートというところまで一気通貫してできるような仕組みになるといいかなと思いました。

(玉城座長)

貴重なご意見ありがとうございました。本当に大事なことだと思います。県民基礎調査でいくと、若者の8割ぐらいがこのSDGsに関して関心を持って進めていきたいと言っているのですが、やはり大人層を見ていくと3割ぐらいなんですね。この意識の乖離が沖縄の中ではまだまだ起こってしまっていて、啓発というのはここ数年、非常に重要な位置づけになるのかなと思いますので、今の意見も十分反映していけたらと思っています。

それでは皆様よろしいでしょうか。最後の報告の部分、残っています。たいへん限られた時間ではありましたが、皆様貴重なご意見ありがとうございました。今後またチャットワークなど含めましてご意見収集できたらと思っています。それでは事務局の方、進行の方をお返ししたいと思います。

(事務局)

ありがとうございました。次第の3の報告事項ですけども、先ほどお話がありましたSDGs OKINAWA グランプリですが、高校生、学生からのアイデアコンテストでした。そちらの方の審査委員に佐野委員にご参画いただきましてありがとうございます。授賞式、および受賞者発表は1月中旬頃を予定しています。また、去る11月に県庁職員向け、管理職向けですね。SDGs 推進リーダー向けの研修を開催いたしまして、玉城先生に講師としてやっていただきまして、約300人が参加をいたしました。先ほどは知事から冒頭ありましたようにおきなわSDGs パートナーの登録団体も312団体となっております。今年度分の受付は明日までと

なっていますが、どしどし応募いただいている状況ですので、次年度引き続き頑張りたいと思います。また、県庁内だけではなく市町村との連携も進めていまして、連絡会議も開催しております。未来都市恩納村、石垣市との連携も進めておりますので、今後市町村とも連携をしてどんどん発展をさせていただきたいと思います。報告事項は以上となります。それでは本日の会議につきましては事務局にて議事概要をまとめまして、委員の皆様にご確認いただいた後、会議資料と共に県ホームページに掲載をしたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、令和3年度第2回SDGsアドバイザーボード会議を終了いたします。本日は皆様お忙しい中ありがとうございました。